

人間ドックで肺がんを調べるには、どのような検査がありますか？

日本人の死因の第1位は悪性新生物（がん）ですが、そのなかでも肺がんの年間死亡数は、7万人以上（2011年）と最も多くなっています。

肺がんを早期に発見する方法としては、胸部単純X線撮影や、痰を採取してその中にどのような病的な成分が含まれているかを顕微鏡で観察する喀痰細胞診などがあります。

通常、胸部単純X線撮影または、胸部単純X線撮影+ 喀痰細胞診の組み合わせが広く行われていますが、早期の小さながんを発見するのはなかなか難しいのが現状で、近年ではより小さな病変を検出することができる胸部CT（コンピュータ断層撮影）検査を行う施設が増えてきています。

肺がんは早期段階では自覚症状がほとんどないため、色々な検査の組み合わせで早期に発見することが大切です。

肺がん検査の種類と長所・短所は？

検査名	長所	短所	当センターでは
胸部単純X線撮影	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの健診施設で実施できる簡便な検査である 胸部全体の様子を1枚の写真で把握できる 	<ul style="list-style-type: none"> 初期の小さながんや、心臓、血管、骨に隠れた小さい腫瘍は、胸部単純X線撮影では病変を発見するのが困難な場合がある わずかながらX線による被ばくがある 	<ul style="list-style-type: none"> 各コースとも基本項目に含まれています 正面と側面から2枚撮影します
胸部CT	<ul style="list-style-type: none"> 肺の病変の早期発見に最適 胸部単純X線撮影に比べ、初期段階の小さながんを発見することが可能 	<ul style="list-style-type: none"> 肺癌が疑われるような良性的な腫瘍まで見つかるため、これが人々を不安に陥れる 放射線の被ばく量が胸部単純X線撮影と比較して多い 	<ul style="list-style-type: none"> 各コースともオプション検査として承っています 肺だけでなく、縦隔（心臓や大血管など）チェックします
喀痰細胞診	<ul style="list-style-type: none"> 胸部単純X線撮影では見つけにくい肺門部や太い気管支にできる扁平上皮がんを見つかりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 肺の奥部分に癌が生じる末梢型は発見が困難 喀痰の採取が困難な場合がある 3日間採取し続けなければならない 	<ul style="list-style-type: none"> 各コースともオプション検査として承っています

健診での胸部CT検査の目的

健診での肺がんCT検査の目的は、転移を起こす前の完治が可能な**早期の時期に肺がんを見つけて、適切な治療を受けることにより、肺がんにより命を落とさないようにすること**です。

胸部CT検査の有用性とは？

CT画像は肺を輪切りにする断面像なので、心臓の裏側の部分や腹部に近い横隔膜の裏側など、他の臓器や骨と重なり合うことなく観察が可能です。このため**胸部単純X線写真に比べ、肺の末梢にある小さながんの診断には大変に有用**です。

検査は、胸部単純X線撮影と同様に、呼吸を数秒止めている間に肺全体を細かく撮影して、得られたデータをコンピュータが計算し、**約1mmごとの高解像度な肺の断面画像を作成**します。

当センターの胸部CT検査では、肺の病変だけではなく、縦隔（左右の肺の間の、心臓、大血管、気管、食道、胸腺、リンパ節などの臓器が存在する場所）にある病変（縦隔腫瘍、胸部大動脈瘤や心臓疾患など）も、しっかりとチェックして、小さなものまで発見できます。

胸部CT検査では、肺がん以外にも肺結核、気管支拡張症、気胸、肺気腫などの肺の病変が検出可能です。

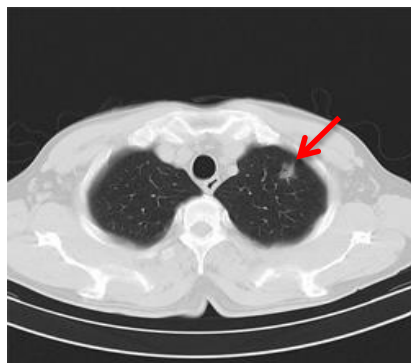
低線量撮影により被ばく線量を低減します

当センターでのCT健診は、最先端のマルチスライスCT装置と**被ばく低減技術を用いて**おり、平均的体格の方では通常の検査に比べ、実効線量で1/2~1/3程度の5mSv（ミリシーベルト）以下の**低被ばく線量で検査を行っています**。

また、当センターでは、**放射線科専門医による診断により、精度の高い健診が可能**となります。



胸部単純X線写真



胸部CT断面像



当センター320列マルチスライスCT装置